

特集

免疫細胞療法

当紙、No186号(平成23,9,21発行)に記載しましたが、ガンの免疫細胞療法について、今回は少し詳しく取り上げます。

... ..

前回には、“アメリカのバイオベンチャー企業がこの方法で患者の生存期間を引き延ばせることを確かめた”と書きました。それに基づき2010年5月初め、米国食品医薬品局(FDA=Food and Drug Administration)=食品、薬品、農薬、化粧品などの消費者側に立つ検査、承認する機関)が、進行した前立腺ガンに対しての当療法の効能を承認したのです。

その方法とは患者の血液から免疫をつかさどる細胞を培養で増やしたり、特殊な物質を加え活性化させたりした後に体内に戻し、ガンを治療しようとするものです。それにより患者の生存期間の延長を大規模な臨床試験で確かめたのです。

但し、前回にも書きましたが、その効果は前立腺ガンに罹っている1000人の人を無差別に500人ずつに分け、それらを実験対象者として、この療法を施す集団と施さない集団に分けた結果、平均生存日数は25,8ヶ月と21,7ヶ月に分かれたというものです。つまり、この療法を施された集団は施されない集団よりもほぼ2年間で4ヶ月長生きした、ということになります。

目下、世界中でガン治療は、1,手術、2,抗ガン剤、3,放射線治療、の3方法が採られています。ここに現れた免疫細胞療法は本来体に備わっている免疫力でガンを治すという発想で、「自然治癒力を生かす」という点では大変魅力的な療法と言えます。

しかし、この歴史は古く1890年代にアメリカの医師が患者に細菌を感染させ、免疫を刺激してガンを治療したりしましたし、日本でも1970年頃より、丸山ワクチンが同じ免疫療法の一つとして、根強い支持者を生みました。ガンではないですが、日本ではウルシにかぶれさせて結核を治す治療=自然治癒力療法というのが戦前からありました。(そう言えば断食療法というものもありましたね)

そもそも、ガンは患者の体の一部から発生し、免疫の監視を逃れ、大きくなっていくものです。そんな中で、免疫細胞がガン細胞と正常細胞とを見分けるのは実際は

難しいとされています。(丸山ワクチンでも多くの部位のガンに対し、抗ガン剤と併用すると、その生存率が何%延びるとか実験結果が出されているようです。)

元へ戻って考えると、作られた(強くなった)免疫細胞(免疫系)がガン細胞を攻撃するのは一種の誤作動であって、自分の組織を攻撃して病気を引き起こす自己免疫反応に似ているとも言えるのです。よって現在までには三大治療に匹敵する治療効果は認められていません。

但し、この療法を専門とする民間のクリニックも目下、増加しておりますが、生存期間の延長などの効果が明確に示されているとは言えないようです。それは、末期の患者で試されたり標準治療との併用で行われたりするケースが多く、効果を科学的に証明することが難しいからだとも言われています。(文責 松井)

金に糸目はつけない人たち

自由診療で提供される免疫細胞療法は公的保険が利かないので費用が高額になります。それでも受ける患者は年々増えているようです。(ネットで調べるとこれ専門のクリニックが大々的にホームページを開いています。)

大都市の60歳代のAさんは腎臓ガンが肺に転移し、4年前に免疫細胞療法を民間病院で受けました。「体力的な問題で手術はしたくなかった」からです。放射線治療との併用でしたが、費用は230万円に上りました。幸いにもガンは縮小しましたが、「効いたのが免疫か、放射線かは分からない」と言っています。しかし、彼は「効かない可能性が高いことは知っている。ただ、患者にとっては次に打つ手があるということが希望と喜びなのです。」と話しています。

同系列のクリニックは全国で17カ所。計4250例以上の治療実績がありますが、有効性を統計学的に示す十分なデータは未だ得られていないようです。

... ..

【あとがき】 ① 当院のミニギャラリーには目下、山口栄二氏(若狭町大鳥羽)が、NHK大河ドラマ“江(ごう)一姫たちの戦国”にちなみ、江の姉のお初が常高寺を小浜に建立した史実から、「お初シリーズ」と銘打って、5点の油絵を展示しています。ゆっくりご鑑賞下さい。② 今年は「大正」100年に当たります。今や“降る雪や大正遠くなりけり”かな。③ 今年の3.11東日本大震災は本当に心痛む出来事でした。年末にあたり、亡くなられた方へご冥福を祈り、一日も早い復興を応援したいと念じます。皆様もいつも心に留めておいて下さいませよう。